

### 第3章 分析と考察

#### 1 質問紙調査の結果から

##### (1) 研修受講者の属性について

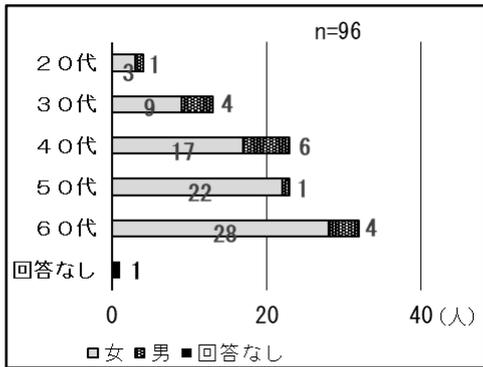
男女の割合は、女性が82.3%、男性が16.7%、その他が1.0%である。修了研修別でも、家庭教育支援プログラム指導者研修では74.2%、家庭教育オピニオンリーダー研修では94.5%が女性であり、特に家庭教育オピニオンリーダー研修では偏りが大きいことがわかる。【図1-1】【図1-2】【図1-3】

年齢層に着目すると、60歳以上が全体の33.3%、50歳代と40歳代がそれぞれ24.0%であり、20歳代～30歳代は2割に満たないことがわかる。【図1-4】

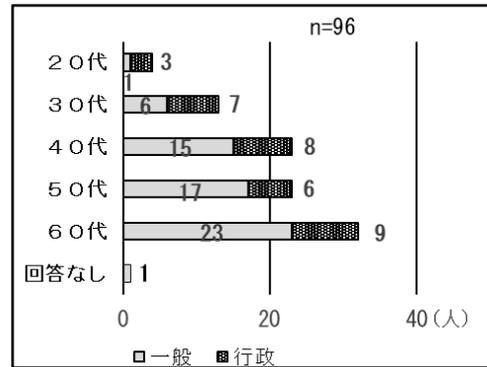
年齢と、男女及び職種の別をクロス集計すると、40歳代～60歳の女性が多いことや、20歳代30歳代の修了者は社会教育行政関係者が目立つことがわかる。【図1-7】【図1-8】

男性の回答者について、年齢と職業をクロス集計すると、特に一般男性の修了者は少なく、他の性別や職種では数の多さが目立つ50歳代・60歳代がほぼいないことがわかる。【図1-9】

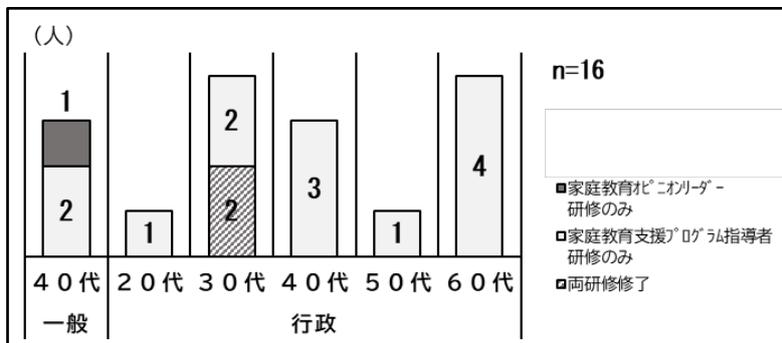
以上のことから、より多様な属性の方が受講できる研修としていくための工夫が必要であると考えられる。



【図1-7】回答者の年齢（男女別）



【図1-8】回答者の年齢（一般/行政別）

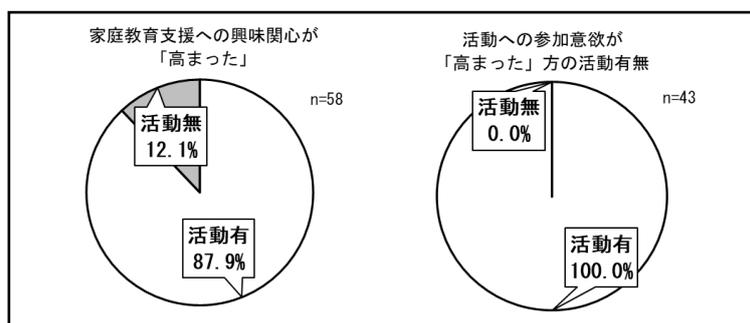


【図1-9】男性回答者の年齢と職業

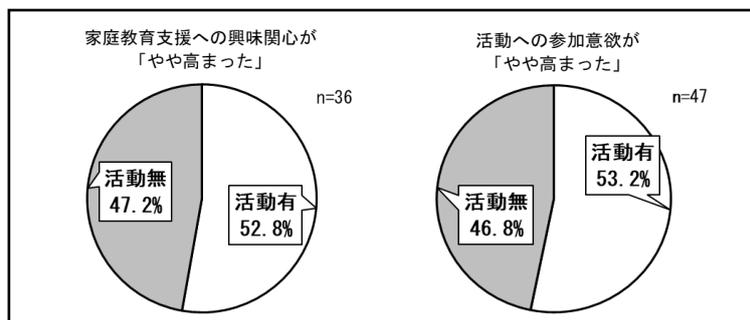
(2) 研修修了後の活動状況について

① 研修受講による「家庭教育支援への興味関心」と家庭教育支援に関する「活動への参加意欲」の変化と、修了後の活動参加状況の関係を調べた結果、活動に参加している割合が、興味関心が「高まった」と回答した方は 87.9%、参加意欲が「高まった」と回答した方は 100.0%だった。また、興味関心が「やや高まった」と回答した方は 52.8%、参加意欲が「やや高まった」と回答した方は 53.2%が活動に参加していた。

受講者の家庭教育支援への興味関心や活動への参加意欲を十分に高めるために、養成研修を通して家庭教育の理念やその支援活動の必然性などについて理解を深めると共に、活動の魅力を感じることができるよう研修内容を工夫する必要があると考える。【図2-7】【図2-8】



【図2-7】活動の有無（家庭教育支援への興味関心及び活動への参加意欲が『高まった』）



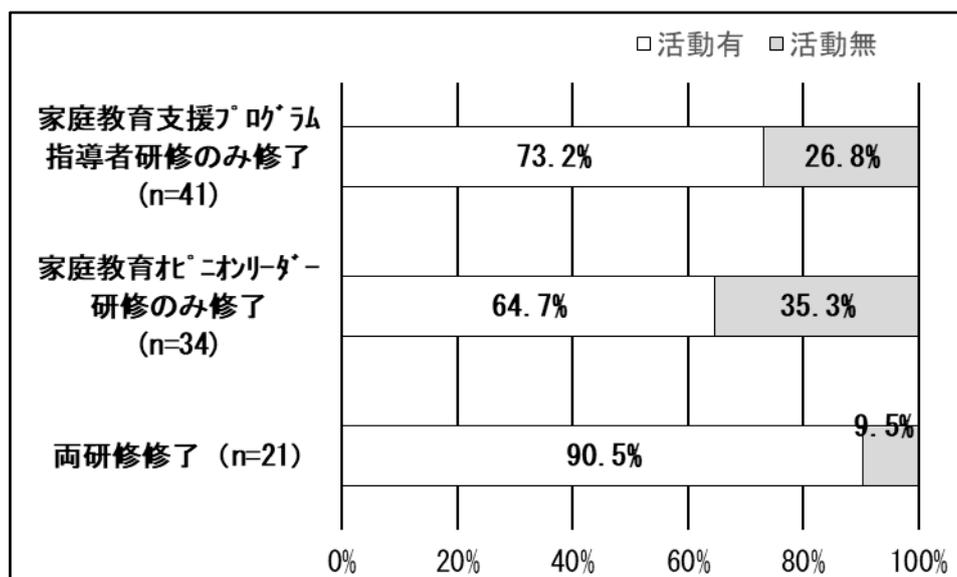
【図2-8】活動の有無（家庭教育支援への興味関心及び活動への参加意欲が『やや高まった』）

② 修了した養成研修別に家庭教育支援活動への参加状況を調べると、家庭教育支援プログラム指導者研修のみ修了した回答者の 73.2%、家庭教育オピニオンリーダー研修のみ修了した回答者の 64.7%、どちらの養成研修も修了した回答者の 90.5%が活動に参加している（していた）ことが分かった。【図2-9】

どちらの養成研修においても、修了後に活動へ参加する割合は 50%を優に超えていた。このことは、長年続く両研修が多く修了者を生み出したことと、その修了者が研修の学びを生かし、各市町で家庭教育支援を担う団体やチームを形成して、地域の家庭教育支援を力強く支える活動を積み上げてきたことと深い関連があるだろう。これらの団体やチームが養成研修修了者の受け皿となり、地域の家庭教育支援の活動につなぐこの仕組み・流れは、少子化や地域のつながりの希薄化が進み、家庭教育支援の活動の重要度がますます高まっている現在において、今後もぜひ継続すべきものであるといえる。県や市町の主管課や各市町において活動に携わる団体等は、この仕組みの有用性を

再認識する必要があるだろう。

また、養成研修を両方修了した回答者では90%以上の方々に実際の活動参加経験があり、家庭教育支援についての学びを深めることが、実際の家庭教育支援活動へとより強く結びつく様子が伺える。一方の養成研修のみの修了者にはもう一方の養成研修の受講を勧めるなど、意図的に両養成研修修了者を増やす試みは、家庭教育支援の活動参加者の増加や、今ある活動の充実・活性化につながる可能性が高いと考える。



【図2-9】研修別 回答者の活動参加状況

- ③ 回答者が、自身が参加する活動の満足度（『高い・やや高い・やや低い・低い』の4段階評価）を「評価した理由」について記載した結果を分析すると、評価が「やや高い」及び「やや低い」となった理由として、活動上の課題と捉えることのできる記載が散見された。これらの中には、活動団体や行政も含めた、家庭教育支援の推進体制全体に関わるような内容についての記載もあった。【表2-1】

このことから、今後の養成研修においては、県内外の家庭教育支援活動における優良事例を紹介するなど、受講者が活動に取り組む際の要点について理解を深めたり、必要な技術の習得を目指したりする取組の充実が必要になると考える。また、県や各市町、各関連団体等の中でこれら活動現場からの声を共有し、一体感を持って活動団体を支援する取組を行っていく必要があると思われる。

【表 2 - 1】活動の満足度に関する記述にみられる活動上の課題

○活動の満足度が「やや高い」及び「やや低い」の回答者による記述で、活動上の課題と捉えられるもの	
<p>「やや高い」 (課題と思われる 記載：9/31件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コロナ禍で制限が生じ思うように活動できない。</li> <li>・支援者としてのかかわりが思うようにいかない。</li> <li>・参加者が固定している。少ない。</li> <li>・改善すべき点が多々見られる。</li> <li>・団体名、「オピニオンリーダー」の認知度が低い。</li> <li>・高齢化もあり活動内容の難しさを感じる事がある。</li> </ul>
<p>「やや低い」 (課題と思われる 記載：5/5件)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者が少ない。</li> <li>・地域のニーズに合った取組になっているか疑問。</li> <li>・活動日数少ない。自分が活動内容をよく理解できていない。</li> </ul>

④ 家庭教育支援プログラム指導者研修について、実際の活動に役立った内容を問うた設問への回答結果を分析すると、全6種類の内容のうち3種類が「活動に役立った」ものとして、50%以上の回答者に選ばれていた。この3種類は、研修修了者が各地域で行う「家庭教育支援プログラムを活用して保護者同士が子育てについて学び合う活動」の進行や、活動する場の設定を行う際に必要となる知識やスキル、心構えなどといった、活動現場における実践力を高めることを目標として実施する内容である。また、特に役立ったものとして選んだ研修が、実際にどんな場面で役立ったかを問うた設問への回答内容（記述）の分析からも、活動における実践力を高める研修内容についての記述が明らかに多かった【P14 ③】。そして、こういった傾向は、「一般」と「行政関係者」の2つの属性の回答者におおむね共通して確認することができた。【図 3 - 2】

現在実施している研修の主なねらいは「保護者の学びを支える参加型学習プログラム『家庭教育支援プログラム』を実践するために必要な知識・技術などを身に付ける」ことであり、その達成に直接的に関わるこれら3つの研修内容が「活動に役立った」と評価されていることから、平成30年度以降実施してきた当該研修の内容は、修了者が地域で活動する際の実践力を高める上で一定の有効性があったと考えられる。

一方、研修を通してもっと詳しく学びたかったことを問うた設問への回答結果からは、修了者の属性による回答傾向の違いが確認できた。この違いは、実際の活動における両者の主な役割の違いに由来すると思われる。つまり、家庭教育支援プログラムを用いた保護者の学習の機会において、一般の修了者はプログラムのファシリテーションなど保護者と直接関わる活動に携わることが多く、主に保護者の学びの「ファシリテーター」であるのに対し、行政関係者は、一般の修了者（ファシリテーター）と保護者（学習者）によって創出される学びの機会を様々な面から下支えし、充実させることを目指す「コーディネーター」としての役割を担うことが多いと予想される。【図 3 - 3】【表 3 - 1】

これらのことから、今後の当該研修においては、今回の調査で得られた属性ごとの学びのニーズ

を考慮した研修運営や内容の工夫が必要になると考える。例えば、現在研修の後半で実施している「グループごとのプログラム内容の検討とファシリテーター体験」において、行政関係者と一般の受講者をバランス良く組合せることで、実際の活動において果たす役割を意識した役割分担を行い、効率よく実践力を高める工夫などが考えられる。

【表3-1】属性別の「もっと詳しく学びたかったこと」(家庭教育支援プログラム指導者研修)

	一般(n=22)	行政関係(n=28)
回答割合 高  低	ファシリテーションの技術 (63.6%)	ファシリテーションの技術 (53.6%)
	県内団体や各市町の活動事例発表 (50.0%)	家庭教育支援の現状や課題・方策 (50.0%)
	ファシリテーター体験やプログラムの参加体験 (45.5%)	県内団体や各市町の活動事例発表 (39.3%)
	家庭教育支援の現状や課題・方策 (36.4%)	ファシリテーター体験やプログラムの参加体験 (10.7%)
		特になし (10.7%)

⑤ 家庭教育オピニオンリーダー研修について、実際の活動に役立った内容を問うた設問への回答結果を分析すると、全6種類の研修内容はどれも「役立った」ものとして一定の評価を集めている様子が伺えた。中でも、栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会の各市町の支部活動を体験するフィールドワークと、子育て家庭の現状とその支援に関する理解を促進するための講話は、「役立った」とした回答者が50%を超え、その内容の有効性が確認できた。【図4-2】

また、特に役立ったものとして選んだ研修が、実際にどんな場面で役立ったかを問うた設問への回答内容(記述)の分析からは、子ども(幼児)理解を促進するための講話と、カウンセリングマインドと相互理解について学ぶ講話・演習に関する記載が目立ち、これらの研修をとおした学びが実際の地域での活動にかなり活用されている様子が確認できた。【P18 ③】

以上4つの研修内容は、「家庭教育オピニオンリーダー」として各地域で家庭教育支援の活動に取り組む際に汎用性の高い、基礎的な知識や技術を高めるものであるため、家庭教育支援活動の素地を養う学びの機会として、今後も着実に実施していく必要性が高いと考える。併せて、活動経験のある回答者から実際に地域での活動に役立つとの声が多かったこれらの内容は、「実際の活動との結びつき」が特に強いものと捉えることができ、地域での家庭教育支援活動に取り組もうとする意欲をより一層喚起する。また、各市町での活動等への参加を促進する上では、これらの研修の内容や進め方を、活動実践につなぐ視点から再検討し、工夫していくことの意味は大きい。

一方で、研修をとおしてもっと詳しく学びたかったことを問うた設問への回答結果からは、回答者の学習ニーズの傾向を把握することができた。「発達障害の特性と接し方」「不登校・非行等学校生活への不適応」といった、近年の子育て家庭を取り巻く課題としても取り上げられることが多いものや、子どもの発達段階の特性や安全確保といった普遍的な課題を選択肢としたが、比較的前者についての学習ニーズが高い様子が伺えた。また、「その他」の具体的な内容には、「ヤングケアラーについて」「虐待を受けている子どもたちへのケアや支援、関係機関へのつなぎ方」といった記述もあり、いわゆる『流行の課題』について学ぶ意欲が高い傾向が確認できた。【図4-3】

現在の当該研修は、前述のとおり家庭教育支援活動の理念や必然性、その在り方等の、基礎的な力の習得を目指すものであり、流行の課題についての学習機会を加える余地は少ない。しかし、近年の子どもたちやその家庭・保護者を取り巻く様々な課題が山積する状況から、家庭教育支援活動

の充実に向けては、活動実践者がそれに関連する様々な内容について学び続けることが大変重要である。家庭教育支援の活動充実に資する別の研修機会を案内するなど、受講者や修了者の学習をサポートする取組の充実に努める必要があるだろう。

- ⑥ 養成研修修了後に家庭教育支援の活動に参加しなかった理由を分析すると、本業や別の地域活動との兼ね合いで、活動に参加する時間的な余裕が不足していることや、健康上の理由などが大きな要因となっていた。

一方で、共に活動する仲間の不在や、県や市町・活動団体からのサポート不足、地域における活動の必要性を強く感じないこと、といった理由も少数ながらあった。また、今後活動を始める気持ちの有無を問うた結果で、「ない」「どちらでもない」を合わせた回答が、活動参加経験のない回答者の約9割（88.0%）であった。これらの結果は、養成研修や受講者（修了者）支援の取組が、家庭教育支援活動への興味関心や参加意欲を高める機能を十分に果たせなかった可能性があることを示している。本章（2）①で述べたとおり養成研修の内容を見直すと同時に、市町や活動団体等に対しても修了者からのフィードバックを伝え、新たな家庭教育支援活動の担い手をより効果的にサポートする策について関係者が共に考え、実践していく必要があると考える。【図5-1】【図5-2】

## 2 聞き取り調査の結果から

ここでは、今後の養成研修の在り方や、その修了者の学びを生かした活動の在り方を考える上で、手がかりとなる要素の抽出を試みた。これらをそれぞれの「活動の特徴」としてまとめることで、本県の家庭教育支援に携わる関係各所において、現在の取組の評価や、課題解決に向けた取組を考えるヒントとすることができると思う。

### （1）家庭教育支援プログラム指導者研修修了者への聞き取り調査から

#### ① 佐野市：A氏の取組

##### 〈 活動の特徴 〉

- ・『本研修の学び+他の研修での学び』のように、複合的に学んだことを生かした活動を実践している。
- ・子どもや子育て、学校教育等に関わる数々の活動経験から得た人々とのつながりを生かして活動している。
- ・市町行政や学校と連携した活動を行っている。
- ・家庭教育を取り巻く現代的な課題の一つと言える「ICTの活用」「ネットモラル」に関する講座を実施している。
- ・多様な学びと活動経験により視野が広がり、地域課題の改善・解決に向けた自身の取組の一つとして家庭教育支援の活動も行っている。

## ② 那須塩原市教育委員会事務局生涯学習課の取組

### 〈 活動の特徴 〉

- ・市の生涯学習課、市内全 15 公民館の社会教育指導員、家庭教育オピニオンリーダー連合会の市内全 3 支部が連携し、「親学習プログラム」を実施している。
- ・コロナ禍に対応し、家庭教育の大切さを伝える取組を行っている。(上記 3 者の連携 による配布資料作成や、地域に「家庭教育オピニオンリーダー」という子育て支援団体があることの周知など)
- ・生涯学習課単独で行う出前講座「Let' s 親学習」で、主に小学校を対象に親学習プログラムを実施している。
- ・市民対象のアンケート調査の結果から家庭教育や子育てについての課題や市民の学習ニーズを把握し、事業に生かしている。
- ・アイスブレイク/ワーク/振り返り というプログラムの流れを、家庭教育以外の研修会等で行うグループワークなどで応用している。

## (2) 家庭教育オピニオンリーダー研修修了者への聞き取り調査から

### ① 小山市：B氏の取組

#### 〈 活動の特徴 〉

- ・自身の持つスキルや、本業の特性を生かした学びの機会を提供している。
- ・学校教育に導入されて日の浅い「プログラミング」や、SDGs の達成に向けた取組の一つでもある「太陽光発電」といった、子どもやその保護者の学習ニーズが高いと予想される内容について学ぶ機会を提供している。
- ・市の関係施設との結びつきを生かし、連携して活動している。
- ・栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会の、自身が居住する市の支部活動も何度か経験し、支部メンバーとのつながりを持っている。
- ・自身の本業の社会貢献活動としての側面をもつ活動である。

### ② 芳賀町：C氏の取組

#### 〈 活動の特徴 〉

- ・コロナ禍に対応できる取組を工夫しながら、(栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会の) 支部活動を行っている。
- ・町の行政関係各課や学童保育施設、農家、書籍の販売店等との連携による家庭教育支援事業を行っている。
- ・活動団体内で、先輩活動者から学んだことを生かしながら活動している。
- ・PTAの本部での活動や、NPOでの活動、地域学校協働活動推進員としての活動など、豊富な活動経験と多様な人々とのつながりを有している。
- ・参加者の声を今後の取組改善に役立てるため、事業の実施後にアンケートを実施している。

### ③ 大田原市：D氏の取組

#### 〈 活動の特徴 〉

- ・ 居住する市の栃木県家庭教育オピニオンリーダー連合会支部での活動に、意欲的に参加している。
- ・ 支部活動の現状から自分なりに課題を分析し、その解決に向けた取組の在り方を近隣の市町の支部とも情報交換しながら模索している。
- ・ 主な活動地域（居住する市）における家庭教育支援のニーズについて理解を進めることで、より効果的な活動の在り方を探っている。